

(23)

地域総合

2012年(平成24年)4月24日(火曜日)

早期発見へ「年1回血液検査を」

前立腺疾患を解説

宇多津 患者や家族に専門医



講師
前立腺がんなどについて講演する西医師

宇多津町、ユープラザうたづ

聖マルチン病院(坂出市)
谷町)の名譽院長で、泌尿器科を専門に第一線で活躍する西光雄医師が22日、宇多津町のユープラザうたづ

で「泌尿器のがん」をテーマに講演。疾患の特徴や治療方法について詳しく解説した。

また、肥大症やがんの検査方法をはじめ、薬物療法や放射線療法など患者により複数の治療法があることも分かりやすく解説した。

前立腺がんの死亡率は、

春会長が主催し、患者やその家族ら約90人が聴講した。

西医師は、イラストを用

いて前立腺肥大症と前立腺がんが別の病気であることを強調。その上で、自覚症状として「肥大症は頻尿や残尿感など排尿障害を起こす。がんは症状が出にくく、比較的進んでから頻尿や血尿などの症状が出る」と話した。

健診の普及や高齢化などを背景に、2015年には現在の2・5倍になると推測されていることも説明。早期発見の重要性を強調し、「50歳を過ぎれば年に1回程度、血液検査でPSA(前

立腺特異抗原)値を測定することを勧める」と訴えた。西医師は、香川労災病院(丸亀市)の泌尿器科部長を定年退職後、4月1日に聖マルチン病院名譽院長に就任した。

立腺特異抗原)値を測定することを勧める」と訴えた。